



大島事業所トピック

No. 324

平成 20 年 7 月 30 日

島しょ農林水産総合センター大島事業所発行

〒100-0212 東京都大島町波浮港 18

Tel 04992(4)0381 Fax 04992(4)0383

ホームページ <http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

調査船「みやこ」 本土最東端「南鳥島」へー 1

日本最東端の島はやはり遠かった！

南鳥島は北緯 24 度 17 分、東経 153 度 58 分、東京から南東に約 1,950 km、小笠原諸島の父島から約 1,100 km に位置する周囲約 6 km の隆起珊瑚礁からなる小さな島で、東京都小笠原村に属します。島には自衛隊、気象庁、海上保安庁の施設と職員が常駐するだけです。

調査船「みやこ」(136t)は 7 月 16 日に大島波浮港を出航、海洋観測を行いながら鳥島を経て南鳥島沖に到着したのは 5 日後の 21 日でした。



図 1 調査船「みやこ」から南鳥島をのぞむ

調査船「みやこ」3 度目の南鳥島調査

現在の調査船「みやこ」は、今年で建造から 21 年目を迎えました。南鳥島調査は平成 6 年、8 年に続き今回で 3 度目となります。これまでの調査で、伊豆諸島海域や小笠原海域では資源が減少してきているハマダイなどの底魚資源が確認されています。また、同海域は、本土へ北上するマグロやカツオなどの回遊コースのひとつとも考えられており、同島周辺海域でのデータやサンプルの収集は、伊豆諸島海域や小笠原海域の水産資源の動態を調べる上で大変役に立ちます。

そこで、今回は底釣り試験操業、曳縄試験操業、プランクトンネットによる卵稚仔採集、海洋観測を行いました。

釣獲魚はビックサイズ

底釣り試験操業は、同島から 1 マイル(1,852m)も離れていない水深 300~400m の地点を中心に行いました。この水深の水温は 13~14℃台で、伊豆諸島海域と比べると 5~6℃ほど高めでした。

釣獲した魚はハマダイ(通称「おなが」)、メダイ、ハチジョウアカムツなどで、伊豆諸島海域よりもひとまわり大型のサイズばかりでした。

曳縄試験操業では、釣果はありませんでしたが、海面を跳ねるキハダの群れを確認することができました。



図 2 ハマダイ *Etelis coruscans* 全長 100cm



図 3 ハマダイに次いで多く釣獲されたヤマブキハタ *Saloptia powelli* 全長 45cm

キンメダイの赤ちゃんも狙います

キンメダイについては、これまで本格的な調査を実施していない鳥島から南鳥島周辺の 8 地点で卵稚仔採集調査を行いました。今後、採集したサンプルを調べ、同海域におけるキンメダイの産卵の有無等を明らかにしていく予定です。